



## INDEX

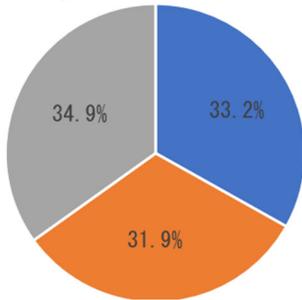
- ・ 日本養鶏協会のAWに関する基本方針の取り組み状況（アンケート結果）について..... 1
- ・ 養鶏経営者における雇用問題、人件費問題に関するアンケート結果について ..... 2-6
- ・ 訪日外国人向け「たまご料理体験」事業が終了 124名が参加、日本産鶏卵の魅力を“体験”で発信 ..... 7
- ・ 徳島県養鶏協会主催 たまご・阿波尾鶏料理教室開催 ..... 8
- ・ 日本養鶏協会ホームページのリニューアルについて ..... 9
- ・ 統計データ ..... 10
- ・ 協会活動報告 ..... 11

## 日本養鶏協会のAWに関する基本方針の取り組み状況（アンケート結果）について

令和5年7月にAWに関する飼養管理指針が農林水産省畜産局から発出されました。本指針を踏まえ令和6年6月28日付けで、当協会により「(一社)日本養鶏協会のアニマルウェルフェアに関する基本方針について」を作成公表致しました。

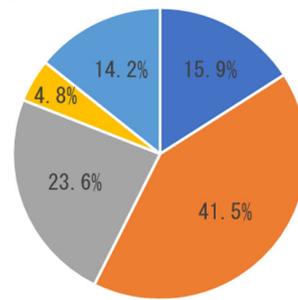
これに関連したAWの取組状況について、前回調査（令和6年1月）から1年半が経過しており、現状の把握分析を行うことを目的に、令和7年10月に実施した2度目のアンケート結果を取りまとめましたので公表します。（回答率(件数ベース)：314件/662件(47.4%)）

### 1. 換羽について



① 絶食方式による換羽	28,053 千羽
② 給餌方式による換羽	27,023 千羽
③ 換羽をしていない	29,535 千羽
計	84,612 千羽

### 2. 飼養スペースについて



① 370 cm <sup>2</sup> 未満	13,612 千羽
② 370 cm <sup>2</sup> 以上 430 cm <sup>2</sup> 未満	35,466 千羽
③ 430 cm <sup>2</sup> 以上 490 cm <sup>2</sup> 未満	20,221 千羽
④ 490 cm <sup>2</sup> 以上 550 cm <sup>2</sup> 未満	4,075 千羽
⑤ 550 cm <sup>2</sup> 以上	12,169 千羽
計	85,543 千羽

### 【アンケート調査結果の概要】

#### 1. 換羽について

回答のうち、①絶食方式による換羽が33.2%（前回45.6%）、②給餌方式による換羽が31.9%（前年度42.2%）、③換羽をしていない34.9%（前年度12.2%）となりました。

#### 2. 飼養スペースについて

回答のうち、①370 cm<sup>2</sup>未満が41.5%（前回46.7%）、②370 cm<sup>2</sup>以上 430 cm<sup>2</sup>未満が23.6%（前年度28.8%）、③430 cm<sup>2</sup>以上 490 cm<sup>2</sup>未満が4.8%（前年度5.0%）、④490 cm<sup>2</sup>以上 550 cm<sup>2</sup>未満が14.2%（前回3.0%）、⑤550 cm<sup>2</sup>以上が15.9%（前回16.5%）となりました。



## 養鶏経営者における雇用問題、人件費問題に関するアンケート結果について

一般社団法人日本養鶏協会は、昨年10月に当協会生産者会員様を対象に、「養鶏経営者における雇用問題、人件費問題に関するアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたので公表します。

アンケート対象先	662社
回答数	283社
(内,新規採用の予定なし)	(32社)
(内,新規採用について無回答)	(44社)
回答率	42.7%

### 1. 新規採用環境

○令和8年度について、新卒者（正社員）の初任給はいくらですか。

#### ●大卒（獣医除く）

給与	件数	割合
20万円未満	30	16.6%
20万円以上 21万円未満	24	13.3%
21万円以上 22万円未満	33	18.2%
22万円以上 23万円未満	35	19.3%
23万円以上 24万円未満	23	12.7%
24万円以上 25万円未満	13	7.2%
25万円以上 26万円未満	10	5.5%
26万円以上	13	7.2%
合計	181	100%

〈ご参考〉

令和6年新規大卒者平均賃金は **248,300円**

※厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査結果の概要」より

#### ●高卒

給与	件数	割合
17万円未満	12	5.9%
17万円以上 18万円未満	17	8.4%
18万円以上 19万円未満	41	20.2%
19万円以上 20万円未満	49	24.1%
20万円以上 21万円未満	32	15.8%
21万円以上 22万円未満	24	11.8%
22万円以上	28	13.8%
合計	203	100%

令和6年新規高卒者平均賃金は **197,500円**

※厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査結果の概要」より



○令和8年度について、農場勤務者（正社員）の所定の年間休日は何日とされていますか。

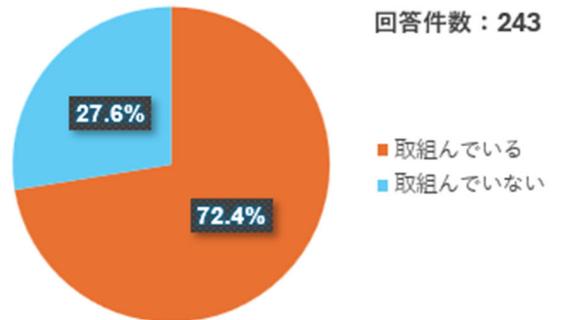
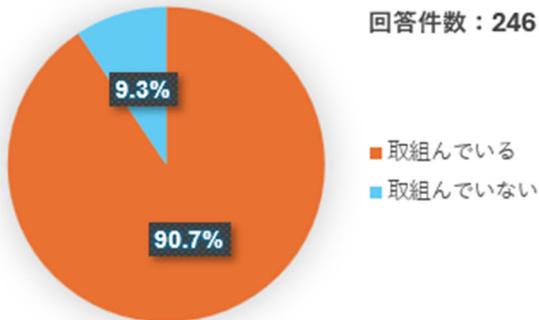
給与	件数	割合
95日以下	92	35.8%
96日～100日	21	8.2%
101日～103日	8	3.1%
104日～106日	63	24.5%
107日～109日	21	8.2%
110日～112日	25	9.7%
113日～115日	10	3.9%
116日～118日	3	1.2%
119日～121日	8	3.1%
122日以上	6	2.3%
合計	257	100%

令和5年平均年間休日は  
**112.1日**  
※厚生労働省「令和6年就労条件統合結果 結果の概況」より

2. 従業員定着のための取組みについて

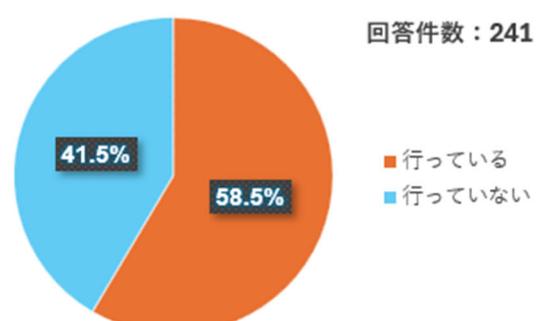
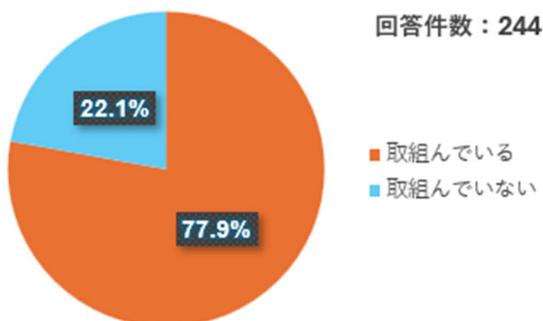
○ 給与水準の引き上げに取組んでいますか

○ 勤務日数の削減に取り組んでいますか



○ 労働時間の削減に取り組んでいますか

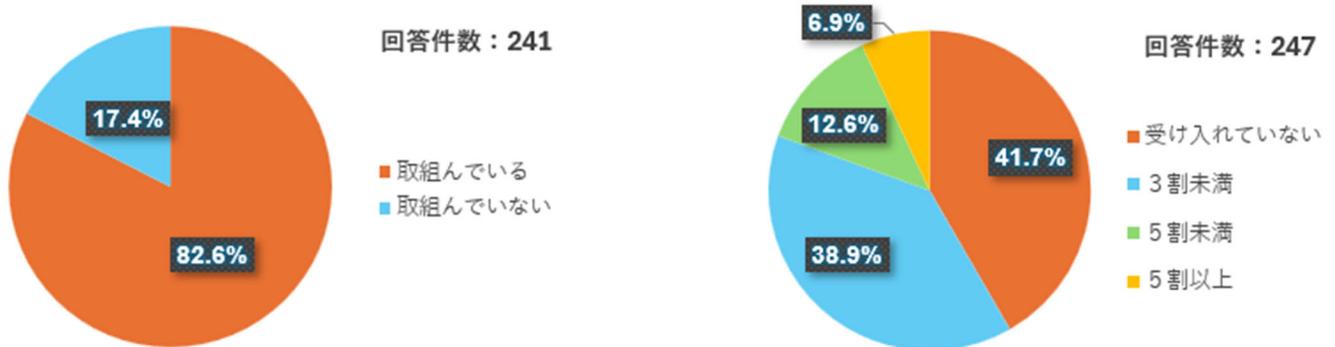
○ 社員研修などの人材育成を行っていますか





### 3. 人手不足、後継者問題への取組みについて

○ 作業の自動化・省力化技術の導入に取り組んでいますか ○ 外国人労働者の受け入れ割合はどの程度ですか



### 4. 従業員確保のための取組みについて（自由記述）

○御社が今後取り組むべき課題は何ですか

●労働条件・労働環境の改善	自由記述
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働条件、労働環境の改善</li> <li>・働く為の良い環境作り</li> <li>・ストレスの無い職場</li> <li>・ほぼほぼ取り組みましたが、あるとすれば住宅補助や給与向上ぐらいだと考える。</li> <li>・継続して社内の環境改善に取り組む</li> <li>・外国人労働者は技能実習生として養鶏の技術を習得し、修了後は帰国するので、新たな実習生確保に労力を要している。実習環境の改善も急務である。</li> <li>・外国人実習生が多く、日本人と一緒に働きづらいと思うので、コミュニケーションをとり、区別なく働けるよう環境を整える事。</li> <li>・職場環境の改善</li> <li>・待遇改善（給与・休日等、生き物を取り扱っているので、物を取り扱っている業種の様にレギュラーばかりではないので、確保するためには何らかの魅力が必要）</li> <li>・待遇の改善（支給金額、休日、福利厚生）</li> <li>・休日を増やす</li> <li>・休日の増加</li> <li>・年間休日数の増加</li> <li>・社員の休日の増加とそれともなう社員増員</li> <li>・休日の確保</li> <li>・人員を確保し、休日日数を増やす。</li> <li>・人員を増やし、休日日数を増やす。</li> <li>・勤務日数の削減</li> <li>・勤務日数の削減</li> <li>・有給休暇日数の引上げ</li> <li>・残業の減少</li> <li>・休日数の確保と賃上げ</li> <li>・労働日数の見直し</li> <li>・勤務日数・労働時間の削減</li> <li>・労働時間の削減</li> <li>・休日を取りやすくする（連休）</li> <li>・従業員確保のためにはまず休み日数を増やしていかないとネット検索等でヒットしないため応募もない。休日数、賃金面苦慮しているところだ。</li> <li>・年間休日を増やす</li> <li>・休日数（年間）を増やす取組を11月から実施。365日の労働だから人の確保が必要。その為には、年間休日が100日（3ヶタ）をきっているとそこから求職人にとって対象外となってしまう。現在86日の為、もう1日毎月増やせば98日となるので導入していくつもりだが、有給休暇や病欠があるとGPIは厳しくなるので、その対策を考え中である。</li> <li>・有給休暇取得率向上</li> <li>・より有給を取りやすいシフトと環境作り</li> <li>・給与水準の引き上げ</li> <li>・給与水準の引き上げ</li> <li>・給与水準UPと休日の増加</li> <li>・給与水準の引き上げ</li> <li>・福利厚生をもっと充実させ、今いる従業員が気持ちよく長く勤めてくれる環境を作りたい。</li> <li>・福利厚生の充実</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福利厚生充実</li> <li>・所定休日の増加や福利厚生を手厚くすることで応募数の増加を図る。</li> <li>・賃金の見直し</li> <li>・給与の引き上げと年間休日を増やす事。</li> <li>・給与水準の引き上げ</li> <li>・報酬水準の引き上げ</li> <li>・賃上げ、社員教育</li> <li>・給与水準の引き上げと時短</li> <li>・給与水準の更なる引き上げ</li> <li>・給与、賞与のアップ</li> <li>・福利厚生充実</li> <li>・福利厚生充実</li> <li>・福利厚生を手厚くする</li> <li>・福利厚生充実化</li> <li>・福利厚生強化</li> <li>・福利厚生充実</li> <li>・自家販売の比率を上げ、売上げを伸ばし福利厚生に力を入れる。</li> </ul>
●作業の機械化・IT化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備老朽化</li> <li>・作業の機械化・IT化</li> <li>・従業員の高齢化→AI導入、DX化を進める</li> <li>・更なる自動化、省力化を進めたい。</li> <li>・ロボットなど導入による省力化</li> <li>・機械の導入による省力化</li> <li>・機械化による省力化</li> <li>・労働環境の美化、自動化等</li> <li>・従業員負担軽減の為の機械化</li> <li>・施設設備の更新による収益の改善及び省力化技術の導入</li> <li>・手集卵、手給餌のため従業員の負担が大きい（作業内容の）。機械を導入して、作業内容の効率化や負担軽減を図りたい。</li> <li>・技術の継承</li> <li>・技術の教育</li> </ul>
●正社員・若年層等の採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正社員の採用</li> <li>・日本人人材確保</li> <li>・新規採用については、今後とも厳しさが増す事が予想される。現在も取組んでいる中途採用者の確保、及び外国人労働者の獲得に注力していく。</li> <li>・高齢化に伴い若い人材の採用と教育</li> <li>・地域貢献をして、近隣高校生等の採用をする。</li> <li>・農大生等のインターン</li> <li>・若年層の採用</li> <li>・ハローワークでは人材探しは難しい状況です。ハローワークの方が休みの少ないこんな企業に本気で勤めるのですがと言われて困っています。派遣会社も3社位をあたっていますし、タイミーも頼っていますが、責任感に欠け長続きしません。「ふぁみんぐ」という求人雑誌にも載せて募集していますし他市町村の公報にも載せ、ドライブインモニターTVに広告を出し中部圏4県へ自社のアピールをするプレゼン専門の会社にも依頼し、その経費はかなりの金額になってきています。休日を増やすためにもスベアになる人材が要りますが現実には厳しいです。</li> <li>・パート従業員の確保、定着</li> <li>・パート使用</li> <li>・親会社と合同採用</li> <li>・場長クラス確保、育成</li> <li>・外国人を含む農場従事者の補充</li> <li>・管理職社員の育成</li> <li>・特定技能の受入拡大</li> <li>・採用専用ホームページ</li> <li>・インディード等の採用ページの活用</li> <li>・高齢化、過疎化が進む中で、地域外からの雇用</li> <li>・求人募集</li> <li>・管理職人材の採用と社内人材の育成</li> </ul>
●外国人雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中に特定技能外国人を複数名採用予定</li> <li>・外国人労働者受け入れを増やす</li> <li>・現在の社員平均年齢54歳という状況なので、今後、外国人雇用を検討する方向です。</li> <li>・外国人労働者の受け入れ</li> </ul>
●障がい者雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者就労</li> <li>・障がい者就労</li> </ul>



<p><b>●人材育成・教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員育成</li> <li>・社員教育</li> <li>・人財教育（特にキャリア教育）</li> <li>・人材育成</li> <li>・人材育成力の強化</li> <li>・現職者を含む教育制度</li> <li>・社員に対する研修の実施</li> <li>・管理者育成</li> <li>・後継管理者の育成・確保</li> <li>・長期（永年）役員となる様な人材の確保と養成</li> <li>・教育体制の確立</li> <li>・教える方の教育</li> <li>・責任者が育てていくこと</li> <li>・作業者も必要だが、教育出来る人材もかなり必要と思う。</li> <li>・ワーカーは技能実習生及び日本人をハローワーク他で何とか採用出来るが、その核となる人材を育てなくてはならない。</li> <li>・豊かな人生を歩んでもらうための考え方、取り組みを教育したい</li> <li>・従業員定着、人事不足、後継者問題への取組みの更なる推進。</li> <li>・適切な人材配置</li> <li>・外国人労働者を農場の責任ある役職に登用するための教育</li> <li>・外国人の育成</li> </ul>
<p><b>●魅力ある企業、業種づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある企業、業種への努力</li> <li>・養鶏の未来のイメージを伝える事</li> <li>・社会における養鶏の必要性をつたえる事</li> <li>・理念、ビジョンを伝えていく</li> <li>・会社のブランディングのため、専門家への委託</li> <li>・この会社で働きたいと思ってもらえるように、会社の魅力を内外に発信していくこと、また魅力ある会社になっていくこと。</li> <li>・社の地元への認知度アップ、主力商品のPR</li> <li>・農林水産業の賃金が低く、大変で、危険もある。たまにやりたい人がいても現実がわかると元の職へ（サービス業等）へもどっていく。有効なレベルの支援がなければ人が定着するわけがない。事業者個々が努力できることはごく小さな有効性のない対策に過ぎない。個ができることはもうほぼ全て行っている。</li> </ul>
<p><b>●従業員の高齢化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の高齢化</li> </ul>
<p><b>●その他</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万策尽きた感有り</li> <li>・雇用、外国人の比率増に対する対応</li> <li>・事業継承</li> <li>・事業継承に向けて、経営体制の整備</li> <li>・高卵価（飼料低価格による収益性の向上）</li> <li>・卵の適正価格が維持できるよう業界としても、様々な取り組みを推進して下さい。</li> <li>・専従者以外はパート従業員で回している。高卒、大卒に給与を出せる規模ではない。よって家族経営での規模で行なうしかない。</li> <li>・労働時間削減、給与ベースアップに対して販売価格の値上げ交渉</li> <li>・信賞必罰</li> <li>・スマート畜産</li> <li>・代表が動く</li> </ul>



## 訪日外国人向け「たまご料理体験」事業が終了

### 124名が参加、日本産鶏卵の魅力を“体験”で発信

2025年の訪日観光客数が過去最高の4,268万人（日本政府観光局発表）を記録し、「食体験」が日本旅行の満足度を左右する重要な要素として注目を集めています。

こうした背景を受けて、日本養鶏協会が令和7年度の鶏卵消費拡大推進事業として取り組んできた訪日外国人向け「たまご料理体験」事業が、2月末をもって全日程を終了しました。「生で食べられる日本のたまご」の安全・安心・高品質という価値を、調理体験を通じて世界へ発信いたしました。12月のオープニングセレモニー以来、体験会場には多くの外国人観光客が訪れ、日本の食文化への理解を深める貴重な機会となりました。



#### ■ 3か月間で124名が参加

12月から2月までの3か月間で124名が参加し、日本の食文化として親しまれている「厚焼きたまご」「たまごかけごはん」の料理体験を楽しんでいただきました。参加者にとっては、「なぜ日本では生卵を安心して食べられるのか」「味や鮮度がなぜ違うのか」といった点が新しい発見となり、日本の養鶏産業が積み重ねてきた衛生管理や品質管理の取り組みへの理解につながる機会となりました。自ら調理し味わうという体験を通じて、日本産鶏卵の魅力が日本滞在の特別な思い出として深く刻まれた様子が見られました。



#### ■ 今後に向けて

訪日外国人にとっての「食体験」は、日本の食文化や食材へのファンを増やす絶好のチャンスです。本事業を通じて、日本産鶏卵の魅力を「体験」という形で発信できたことは、今後の消費拡大に向けた大きな一歩となりました。

協会といたしましては、今回得られた貴重な知見や参加者の生の声を活かし、日本産鶏卵の価値を国内外へ広くアピールする取り組みをさらに強化してまいります。事業実施にあたり、多大なるご理解とご協力を賜りました会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

【お問い合わせ】 業務第2部 Tel : 03-3297-5508

## 徳島県養鶏協会主催 たまご・阿波尾鶏料理教室開催

### たまご・阿波尾鶏料理教室

令和8年2月13(金)、ふれあい健康館（徳島市沖浜東 2-16）において、徳島県養鶏協会主催の「たまご・阿波尾鶏料理教室」を開催しました。

徳島県内の消費者を対象として、鶏卵・徳島県産ブランド地鶏「阿波尾鶏」の料理講習を行うことで、消費拡大と正しい知識の普及に努めました。

また、徳島県のG I 登録産品である「阿波尾鶏」と「御膳みそ」のコラボ料理として、徳島県出身の料理研究家浜内千波氏考案の「阿波の国 味噌鶏汁」を新たな名物料理としてPRしました。

#### 【メニュー】

- ・阿波の国 味噌鶏汁（浜内千波氏考案レシピ）
- ・柔らかむし鶏の味噌だれ添え（浜内千波氏考案レシピ）
- ・味噌そば（浜内千波氏考案レシピ）
- ・ご飯（にじのきらめき（徳島県奨励品種））
- ・卵たっぷりカスタード（公益社団法人徳島県栄養士会 川原明美氏レシピ）



### 認定NPO法人フードバンクとくしまを通じて徳島県産鶏卵を寄贈

令和8年2月18日(水)、ヒューマンわーくびあ徳島（徳島市昭和町 3-35-2）において、長期化する物価高騰により厳しい状況にある「子ども食堂」や「生活物資の支援を必要とする世帯」等に対して、認定NPO法人フードバンクとくしまを通じて新鮮な徳島県産鶏卵とPRパンフレットを提供しました。

目録贈呈式を行うことにより、マスコミを通じて鶏卵の正しい知識の普及に努めました。

寄贈食品：徳島県産鶏卵3,800個（10個入380パック）

※ 本コンクールは、日本養鶏協会の国産鶏卵普及啓発事業の一環となります。



## 日本養鶏協会 ホームページのリニューアルについて

3月から日本養鶏協会のホームページは新しく生まれ変わりました。

訪問していただく皆様の利便性を高めるため、トップ画面では、会員・業界の方と一般の方の2つの入り口を設けて、情報にアクセスしやすくなるように配置しました。各アイコンなどは親しみやすさを感じていただけるイラストや色合いとなっています。

ホームページのリニューアルにあたり、協会内で職員たちがキャッチコピー案を考案しました。理事の方々の投票によって、「生食できる、それが日本品質」というキャッチコピーに決まりました。高い衛生管理水準によって実現している生食文化、国産鶏卵の魅力の一面を表す力強いメッセージとなりました。



一般社団法人 日本養鶏協会  
Japan Poultry Association

[統計](#) [タマゴの知識](#) [質問コーナー](#) [協会概要](#) [リンク](#) [お問合せ](#)



生食できる、それが日本品質

会員・業界の方へ  
業界情報、技術・支援プログラム

一般の方へ  
健やかな暮らしと、卵の知恵



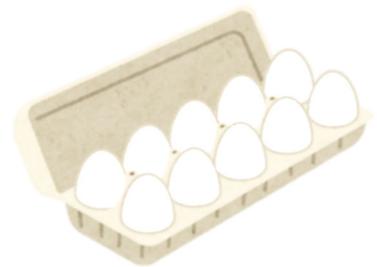
## 統計データ



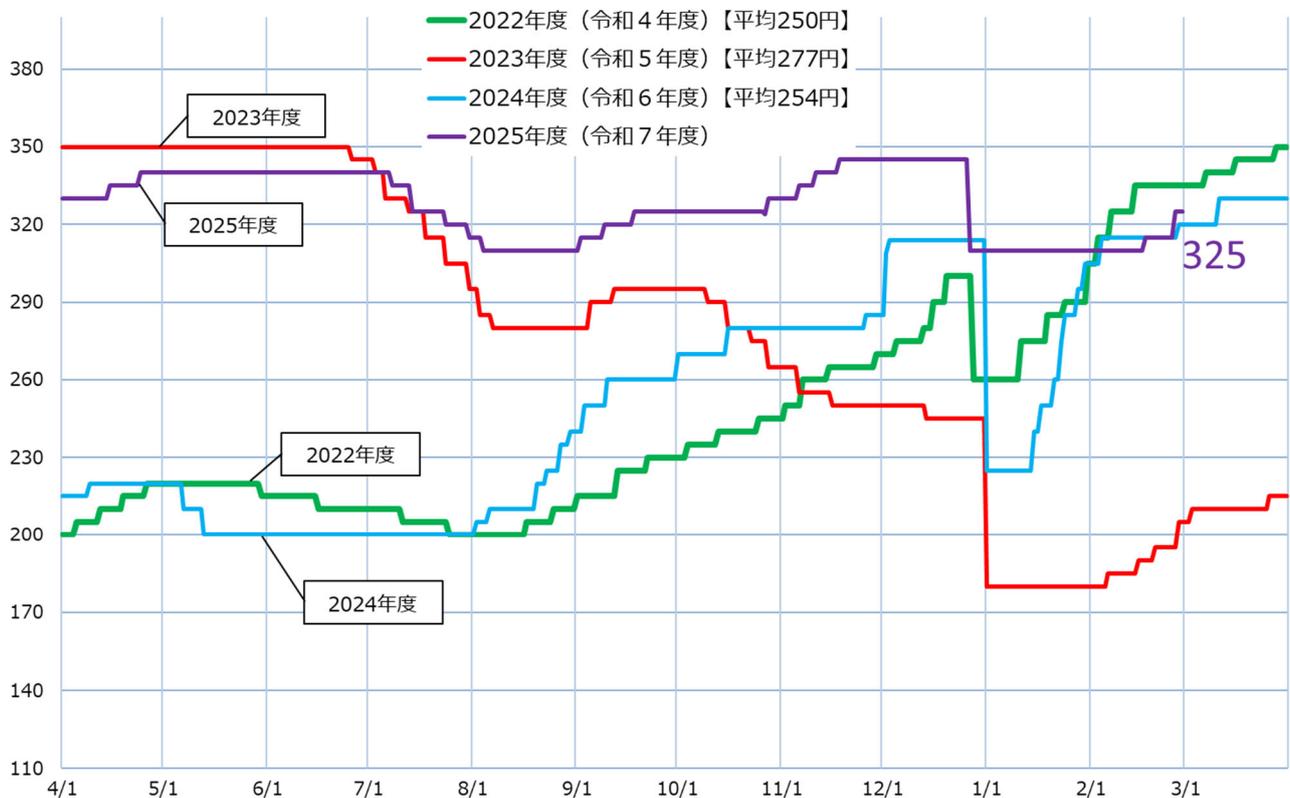
### 鶏卵相場動向 — 過去10年間の2月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成29年	204	228	184
平成30年	189	218	164
令和元年	152	183	139
令和2年	185	212	174
令和3年	183	230	154
令和4年	175	205	159
令和5年	327	359	299
令和6年	190	229	174
令和7年	315	345	299
令和8年	313	350	304
平均値	223	256	205

令和8年2月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値350円は、過去10年の平均値256円を94円上回り、安値304円は、過去10年の平均値205円を99円上回っています。



### 鶏卵相場推移 2022年度～2025年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は1月末の310円から、2月末の325円まで価格が上がりました。



## 鶏卵関係主要計数 —— 令和7年12月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比★	数量(g)	前年比	前年(円/kg)	本年(円/kg)
7年 1月	8,099	107.3%	460	100.1%	897	99.9%	180	258
2月	8,402	110.1%	432	94.5%	860	96.6%	190	315
3月	8,856	106.4%	468	99.9%	932	100.4%	211	327
4月	8,482	102.4%	473	99.4%	905	103.3%	219	334
5月	8,985	111.7%	470	98.2%	920	98.2%	204	340
6月	7,993	99.2%	441	100.6%	880	97.2%	200	340
7月	9,183	107.5%	453	100.5%	899	107.4%	200	329
8月	7,793	100.1%	426	98.3%	871	100.8%	217	310
9月	8,483	115.5%	445	104.3%	841	95.0%	256	320
10月	8,885	104.9%	478	99.1%	892	98.9%	275	326
11月	7,982	107.4%	448	95.4%	910	102.6%	281	340
12月	8,519	95.4%	526	103.3%	949	97.8%	290	345
1年間合計 平均(%)	101,662	105.7%	5,521	99.5%	10,756	99.8%	227(平均)	324(平均)

- ・雛餌付羽数は、8,519千羽（前年比95.4%）となりました。
- ・配合飼料出荷量は、526千トン（前年比103.3%）となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、949グラム（前年比97.8%）となりました。
- ・鶏卵相場は、前年同月の55円高を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

## 協会活動報告



### 鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

#### ① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和4年度	1,794,699
令和5年度	1,731,712
令和6年度	1,824,301
令和7年度	1,784,200

#### ② 標準取引価格

令和8年2月 308.98円/kg

#### ③ 令和7年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 230円/kg

安定基準価格 207円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2026年3月6日

編集・発行責任者：石井 馨 (info@jpa.or.jp)